

巣引きについて

巣引きの要点

- ・自然日長下で飼育します。（電灯の影響の無いように留意します。）
- ・明るく静かな場所に巣箱を置き、巣引き期間中はカゴを動かさないようにします。
- ・金カゴ使用の場合は、皿巢の周囲を目隠しして、♀鳥を落ち着かせます。
- ・ワクモ予防の必要がある場合は、皿巢に市販の除虫菊剤等を少量散布しておきます。

種鳥選定

- ♂
 - ・音質がやわらかく、口を閉じて、ゆったりと鳴く
 - ・喉が大きく、鳴き声もやや大きく、良く鳴く健康な鳥
 - ・ワターグルック・ワターロールがきれい
 - ・鳴きキズ（特にネーザルツアー・ハードアフザク）のある鳥は不可
- ♀
 - ・兄弟鳥♂の音質がやわらかい
 - ・おっとりして、ややふとっている。（神経質な鳥は良くない）
 - ・青菜を特に良く食べる鳥は子育てが上手

発情確認

- ・♂は気温上昇で、♀は日長が長くなると発情が促進されると言われています。（電灯照明の影響で♀の発情が早くなり12～1月に産卵することがあります）
- ・2月下旬頃から♀鳥の発情状態を観察し、紙クズ等をくわえてソワソワするようになったら、巣引きを開始します。（すぐに交尾するようであれば繁殖成功率が高い）

ペアリング

- ・相性の良い組合せを選んでおきます。（相性の悪いペアの雛を得たいときは、♀が十分発情してから交配のみ行います）
- ・♂が♀より強い組合せが良く、♂は3歳まで、♀は2歳までが育雛率高いようです。
- ・極端な近親交配にならぬように注意します。 **原則として4親等以上の交配**

卵餌を与える時期

- ・♀鳥が巣づくりを始める兆候が見えてから、卵餌を与えます。
- ・産卵により♀鳥は体力を消耗しやすいので、最良の餌を与えます。青菜（小松菜・カブ葉・大根葉）を毎日与え、カキガラが不足しないようにします。
- ・第4卵を産んだ日から孵化予定2日前までは、卵餌を中止します。与え続けると♂の追い盛りが激しくなり、卵の破損や雛への給餌不良が生じることがあります。

擬卵との交換や検卵

- ・失敗しやすいので、初心者の場合は擬卵交換せず自然のままにするのが良いようです。
- ・擬卵交換しない場合は、孵化日の差が大きいため、リング入れに注意が必要です。
- ・検卵は不必要。無精卵も残しておくのが、雛の圧死が少なく良いようです。
- ・抱卵後16日以上経ても孵化しなければ全卵が無精卵なので、巣ごと取り出します。

孵化後の管理

- ・孵化1～2日前から、卵餌を与えておきます。
(卵餌の腐敗に注意。ビスケットなどを混ぜると、乾きやすくなり腐敗少ない。)
- ・青菜が不足しないようにします。
- ・エゴマなどの濃厚飼料も十分与えます。
- ・巣からヒナが落ちていることがあるので、そっと戻しておきます

リング入れ

- ・孵化7～8日目の夕方入れます。(遅れると入らず、早すぎると抜けます)
- ・擬卵使用しない場合は2～3日連続してリング入れする必要があります。

ヒナ分離までの管理

- ・巣立ち間近なヒナには手をふれない。……早期巣立ちして凍死することがあります。
- ・親離れする前に次回産卵の始まることが多く、ヒナ羽毛を引き抜いて巣材とするので、ちり紙などを裂いて下げておくと毛抜きが少なくなります。
- ・孵化後35日までは、なるべく親と一緒にしておきます。

親離れ後の管理

- ・孵化後60日までは、卵餌(ビスケット粉を混ぜたもの)・エゴマ・青菜が不足しないよう注意します。十分な栄養が取れず体力低下で落鳥することがあります。
- ・1日数時間の日光(できれば朝日)が当たるところで発育させるのが健康的です。

雌雄の判別

♂

- ・羽色が濃い。
- ・体がやや大きい場合が多い。
- ・グゼリ鳴きがなめらかで上手。
- ・肛門部の突出がやや大きい。

哺乳類の性染色体は ♂XY ♀XX。
鳥類は逆に ♂ZZ ♀ZWとなっており、
♀鳥がヒナの雌雄を決定する。